

海軍公報

(部内限) 第四千三百三十二號

海軍大臣官房

昭和十八年三月五日(金)

○令 達

官房艦第一二五號

新造、大改装、特定修理及大修理艦船(潜水艦ヲ除ク)ノ回航用二號外部礦油ニ關シテハ當分ノ間昭和十二年官房第五四三五號ノ規定ニ拘ラズ油溜「タンク」ニハ公試状態ニ、二號外部礦油「タンク」ニハ油溜「タンク」滿載量ト等シキ數量ヲ搭載スルコトヲ得

昭和十八年三月三日

海軍大臣

官房軍機密第二五五號ノ二

昭和十八年三月四日

海軍大臣

通信防衛對策委員會委員長殿

通信防衛對策委員會ニ關スル件訓令

委員長ハ委員ヲ督シ速ニ通信防衛對策ヲ研究審議シ其ノ成果ヲ報告スベシ

委員長ハ必要ニ應ジ委員以外ノ關係者ノ列席ヲ求ムルコトヲ得

○通 牒

官房備機密第七號ノ一〇

昭和十八年三月五日

海軍省副官

各應長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十七年官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ一)中末尾ニ「ウエンクウ

ウ壹貳五」ヲ加フ

同 部隊區別符表(其ノ一)中末尾ニ「第二十三防空隊 ウ貳四壹」「吳鎮第七特陸 ウ貳四貳」ヲ加フ

海軍公報(部内限) 第四千三百三十二號

昭和十八年三月五日

二〇七

海軍公報(部内限) 第四千三百三十二號

昭和十八年三月五日

二〇八

經豫機密第三號ノ一八

昭和十八年二月二十五日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

海軍建築部ニ於ケル臨時軍事費豫算年度

整理ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ニ依リ處理相成度

記

一 整理年度

四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間トシ之ガ
決算ハ三月末日迄ニ支出又ハ戻入ヲ爲シタル額トス

二 所要見込額

工事現況報告ニ計上スベキ支出見込額ハ三月末日迄
ニ支出又ハ戻入シ得ル額トス

三 整理年度末支拂ノ整理

二月末日迄ニ納入シタル材料費、物品費及同日迄ニ
生ジタル人件費其ノ他ノ諸費ハ特ニ理由アルモノヲ

除キ三月末日迄ニ支出スルコトトシ三月中ニ納入シ
タル物件費及同月中ノ人件費ニ就テモ出來得ル限リ
三月末日迄ニ支出スルコト

四 整理年度末支拂豫算ノ整理

(イ) 支拂豫算殘額ハ特ニ必要アルモノノ外減額ノ手
續ヲ爲サズ其ノ儘新整理年度ノ令示額ト看做シ處
理スルコト但シ俸給、旅費其ノ他(作場費ヲ除ク)
ニシテ一年度限り經費ノ性質ヲ有スルモノノ豫算
殘額ハ不用額トス

(ロ) 整理年度末ニ於ケル支拂豫算現況報告書ヲ別紙
様式ニ依リ四月十五日迄ニ送付スルコト

(別紙一葉添)

經給第二九號

昭和十四年經給第六六號中左ノ通改正ス

昭和十八年三月三日

別表ニ左ノ如ク加フ

海軍省 經理局長

海軍省 經理局長

(東京)	甲	450	385	341	329	303	243	152	130	3246	門司ヨリ新上 (基盤整理)
	乙	281	220	176	166	142	118	67	50		

吳	甲	413	352	310	299	279	223	134	116	2478	門司ヨリ航路 (基隆經由)
	乙	226	174	135	127	110	91	44	33		
佐世保	甲	401	344	304	294	275	219	131	114	2442	門司ヨリ航路 (基隆經由)
	乙	183	135	98	91	79	69	24	21		
舞鶴	甲	422	361	319	308	288	230	141	121	2937	門司ヨリ航路 (基隆經由)
	乙	254	198	156	147	128	105	56	41		
大湊	甲	492	419	371	357	335	270	176	144	3947	門司ヨリ航路 (基隆經由)
	乙	319	249	200	188	162	138	85	62		
鎮海	甲	415	357	317	307	288	215	136	122	2574	門司ヨリ航路 (基隆經由)
	乙	183	135	98	91	79	69	24	21		
馬公	甲	252	203	165	156	143	127	70	64	773	高雄ヨリ航路
	乙	134	100	69	64	55	47	11	10		

海軍公報(部内限)第四千三百三十二號 昭和十八年三月五日

海軍公報(部内限)第四千三百三十二號 昭和十八年三月五日

一一〇

旅	香	314	297	255	244	224	210	113	106	大連ヨリ航路 (空路經由)
	順	209	148	108	100	87	73	27	24	
高	香	203	166	134	128	118	109	53	52	高雄ヨリ航路
	雄	134	100	69	64	55	47	11	10	
632										
2510										

(参照) 昭和十四年經給第六六號ハ支那ニ對スル旅費ノ特例ニ
關スル件ナリ

經豫機密第三號ノ二一

昭和十八年三月四日

海軍省經理局長

關係各支田官
關係各資前渡官吏 殿

支那事變派遣部隊經費支辨軍用手票取扱
手續ノ實行方ニ關スル件並ニ軍票引換實
施要綱中改正ノ件通牒

首題ノ件左ノ通改正セラレ候

一 支那事變派遣部隊經費支辨軍用手票取扱手續ノ實
行方ニ關スル件中第六、一、イ及ロノ「長崎代理店」
ノ前ニ「福岡縣若松代理店」及「福岡縣八幡代理店」

ヲ加フ

二 軍票引換實施要綱中第二、一、イ及ロノ「長崎代
理店」ノ前ニ「福岡縣若松代理店」及「福岡縣八幡
代理店」ヲ加フ

(参照) 海軍機密會計法規類集三三頁及二六頁

○ 辭 令

海軍少將	河野 千萬城
海軍大佐	小倉 眞二
同	田部 明
同	田村 保郎
同	高原 久衛

通信防衛對策委員會委員長ヲ命ス

(幹事)

同 鮫島 素直
 同 橋本 宙二
 海軍中佐 北川 金光
 同 安田 蒼
 同 木田 達彦
 同 石原 宇市
 同 森川 秀也
 同 中山 一俊
 同 南 六右衛門
 同 重川 俊明
 同 和智 恒藏
 同 長井 弘介
 同 鈴木 榮二郎
 同 木村 軍治
 同 出 浦 完
 海軍少佐 高木 季文
 同 小澤 英夫
 同 高橋 孫三郎
 海軍大尉 柴田 完
 海軍技師 田邊 一雄

(幹事)

通信防衛對策委員會委員ヲ命ス

一 第三〇一航空隊
 同 第一派遣隊
 同 第二派遣隊
 一 第五魚雷調整班
 一 大和司令部
 一 ニューギニア政府
 一 呂三十四潛
 一 第三特根
 一 第三十四驅潛艇

○ 雜 款

購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(以上昭明海軍省)
 海軍技師 十 河 浩

○郵便物發送先
 宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザル
 コト

木更津航空基地氣付

「ツ武〇參」

佐世保防備隊氣付第五魚雷調
 整班

横須賀局氣付(第二十三軍用
 郵便所經由) 武藏司令部

吳局氣付(第二十九軍用郵便
 所經由)「セ武參セ六四」

横須賀局氣付(第十二軍用郵
 便所經由) 呂三十四潛

横須賀局氣付(第十三軍用郵
 便所經由)「ツ六六〇武參參」

横須賀局氣付(第十四軍用郵
 便所經由) 第三十四驅潛艇

海軍公報(部内限) 第四千三百三十二號 昭和十八年三月五日

二二二

<p>一 檜丸、第十七日東丸、第十八日東丸</p> <p>吳局氣付(第二十九軍用郵便所經由) 檜丸、第十七日東丸、第十八日東丸</p>	<p>一 橫領第六特陸殘務整理</p> <p>橫須賀局氣付「ウ六六ウ貳參參」經由「ウ壹八七」殘務整理</p>	<p>一 佐鎮第七特陸</p> <p>橫須賀局氣付「ウ壹〇五ウ貳參九」</p>	<p>一 臯月</p> <p>橫須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由) 臯月</p>	<p>一 第二十三防空隊</p> <p>橫須賀局氣付「ウ壹〇五ウ貳四壹」</p>	<p>一 瑞鳳</p> <p>橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 瑞鳳</p>	<p>一 第七五五航空隊</p> <p>橫須賀局氣付(第十三軍用郵便所經由) 「ウ八八ウ壹參參」</p>	<p>一 谷風、浦風、濱風</p> <p>橫須賀局氣付(第十軍用郵便所經由) 谷風、浦風、濱風</p>	<p>一 磯風</p> <p>佐世保局氣付(第四軍用郵便所經由) 嚴島</p>	<p>一 嚴島</p> <p>橫須賀局氣付(第十四軍用郵便所經由)</p>	<p>一 第二特根</p> <p>「ウ壹貳五ウ貳貳〇」</p>
<p>一 龍田</p> <p>橫須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由) 龍田</p>	<p>一 吳防備戰隊司令部</p> <p>佐伯防備隊氣付山水丸司令部</p>	<p>○訂正(承)</p> <p>三月二日附海軍公報(部内限)一九五頁辭令欄中「照屋聖信」ヲ「照屋聖信」ニ訂正ス</p>								

(別紙)

(昭和十八年三月五日海軍公報(部内限))

昭和 年度支拂豫算現況報告書

海軍建築部長

科 目	支拂豫算額		支 出 済 額		支拂豫算残額		記 事

備考「節」迄記載ノト

(限 内 部) 2129

海軍公報 (部内限) 號外

○ 判 決

判 決

昭和十八年三月五日(金)
海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 號外

2130

海軍公報
(部内限)
號外

2131

海軍公報 (部内限) 號外

2132

海軍公報
(部内限)
號外

四

2133

海軍公報
(部内限)
號外

五

2134

海軍公報 (部内限) 號外

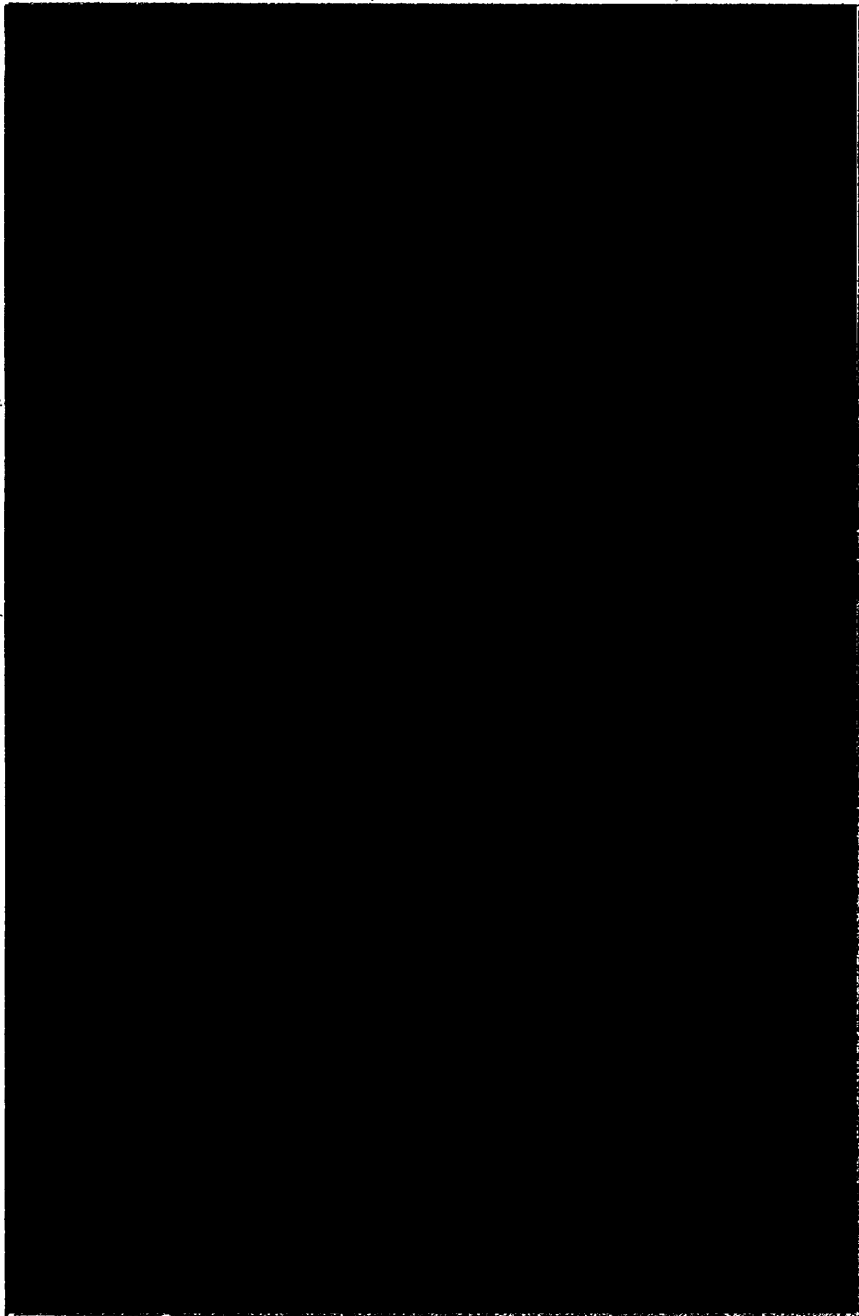
六

2135

海軍公報
(部内限)
號外

七

2136



海軍公報
(部内限)
號外

八

2137

海軍公報 (部内限) 號外

九

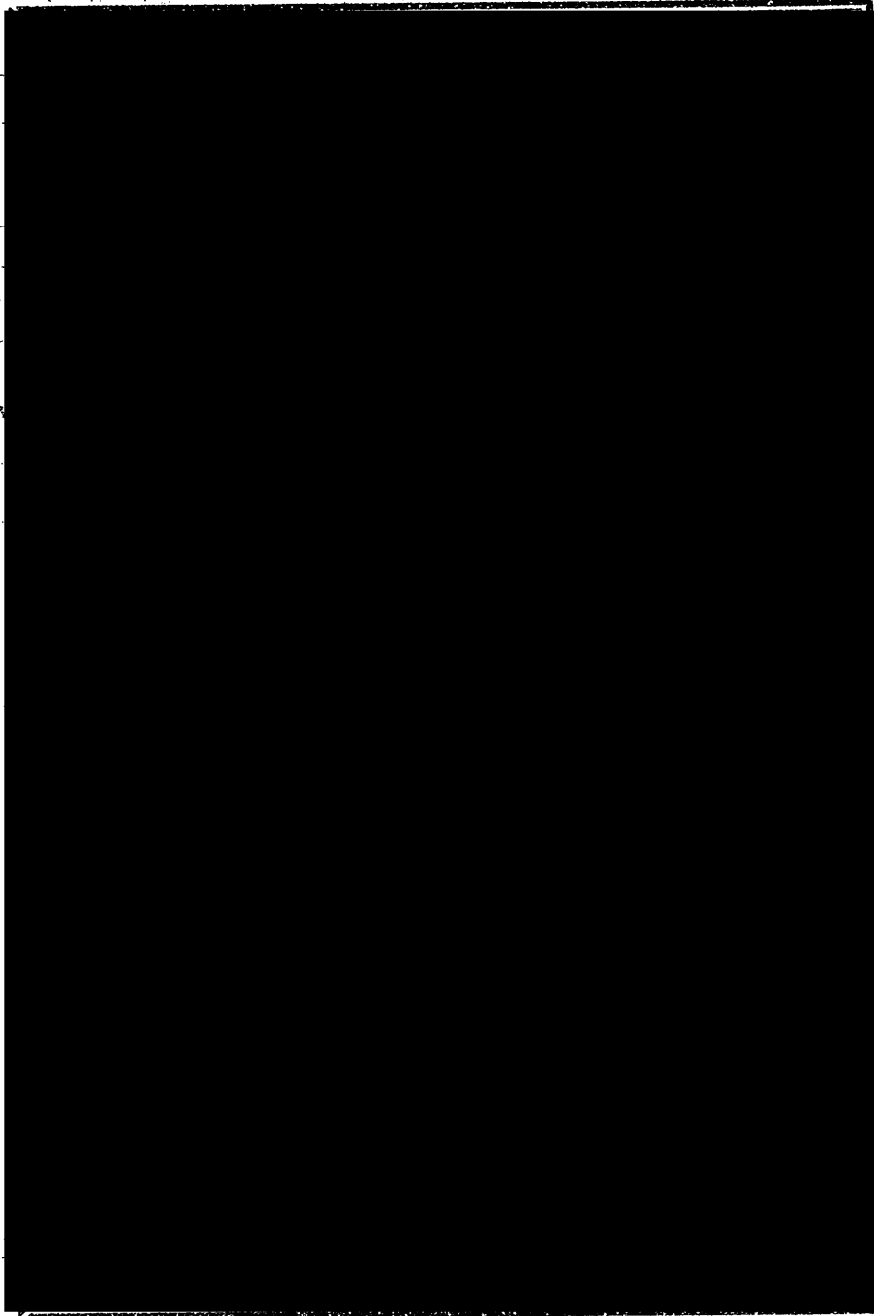
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

2138

海軍公報 (部内限) 號外



2139

海軍公報
(部内限)
號外



2140

海軍公報 (部内限) 號外

三二

2141

海軍公報
(部内限)
號外

一三

2142

海軍公報 (部内限) 號外

一四

2143

海軍公報
(部内限)
號外

一五

2144

海軍公報 (部内限) 號外

一六

2145

海軍公報
(部内限)
號外

一七

2146

海軍公報 (部内限) 號外

一八

2147

海軍公報 (部内限) 號外

一九

2148

海軍公報 (部内限) 號外

二〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

2149

海軍公報
(部内限)
號外

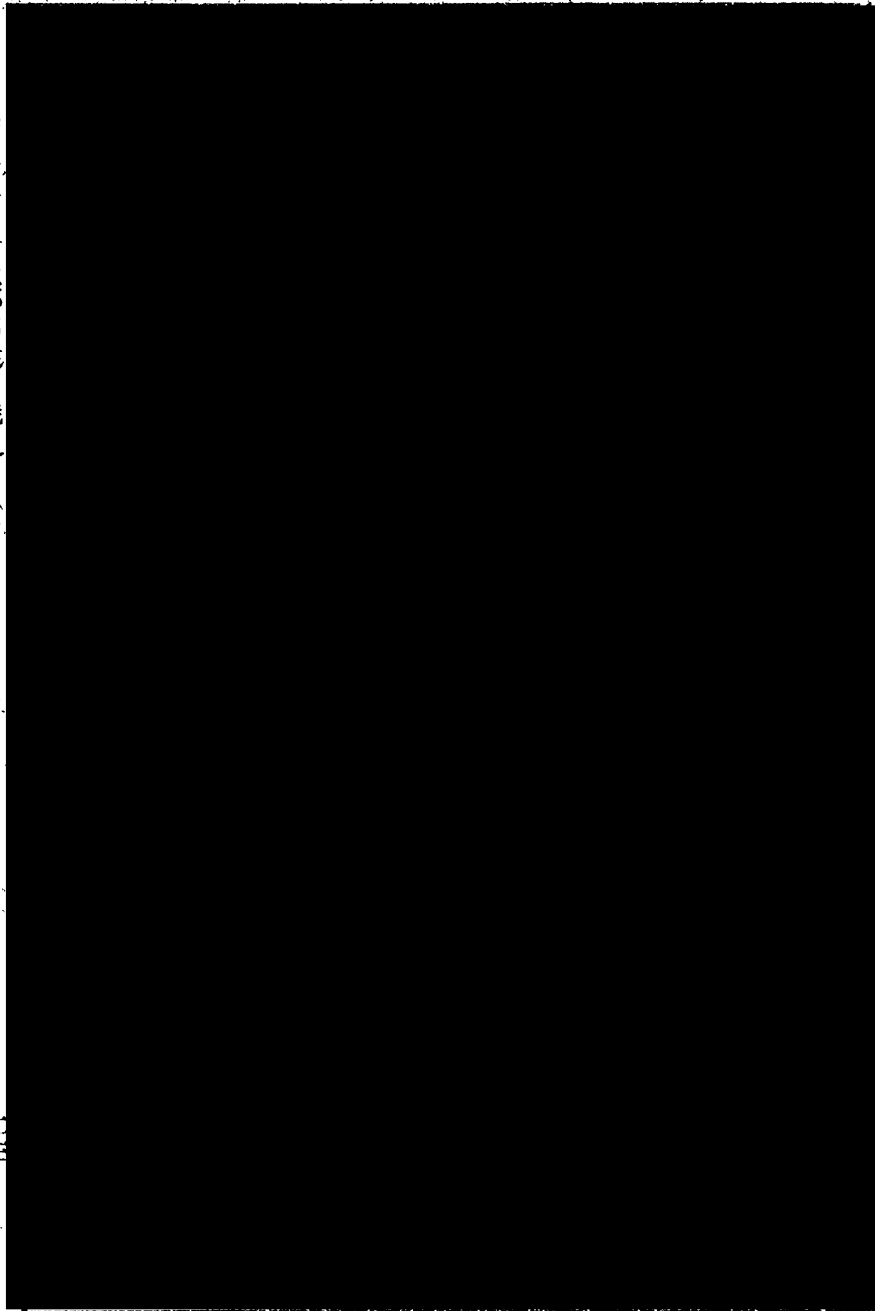
2150

海軍公報
(部内限)
號外

三三

2151

海軍公報
(部内限)
號外



2152

海軍公報 (部内限) 號外

二四

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

2153

海軍公報 (部内限) 號外

二五

2154

海軍公報 (部内限) 號外

二六

2155

海軍公報
(部内限)
號外

2156

海軍公報 (部内限) 號外

二八

2157

海軍公報
(部内限)
號外

二九

2158

海軍公報 (部内限) 號外

三〇

海軍公報

(部内限) 第四千三百三十三號

海軍大臣官房

昭和十八年三月六日(土)

○ 令 達

官房艦第一二九號
 當分ノ間海軍工廠ハ潜水艦基地隊(占領地ニ在ルモノヲ除ク)ニ對シ昭和十五年官房第四七二號ニ準ジ臨時軍事費臨時軍事費造船造兵及修理費令示額中ヨリ當該所屬潜水艦ノ船體機關及兵器修理用材料ヲ供給スルコトヲ得

昭和十八年三月五日

海軍大臣

○ 通 牒

軍務一機密第一六六號
 昭和十八年三月五日
 各廳長殿
 海軍省軍務局長
 機密圖書一時預入ニ關スル件申進

内令提
要登載

開戦以來我損害又ハ喪失艦船ノ機密圖書ハ其ノ處置不適切或ハ不可抗力ノ爲敵手ニ陥リタルモノナシトセザル狀況ナリ此等機密圖書中ニハ當該作戦中ハ不必要ト認メラルルモノ相當有之候ニ付テハ自今當面ノ作戦ニ關係ナキ機密圖書ハ情況許ス限リ一時之ヲ作戦根據地軍需部等ニ預入ルルコトトシ以テ機密保持ノ萬全ヲ期セラレ度

艦本第八號ノ七二七
 昭和十八年三月五日

海軍艦政本部長

關係各廳長殿

潜水艦修理用材料供給ノ件通牒

三月五日官房艦第一二九號ヲ以テ首題材料ヲ供給シ得ルコトニ定メラレタル處右ハ作戦地ヨリ歸投潜水艦ノ在泊期間中基地隊兵力ヲ以テ極力整備ノ實効ヲ擧ゲシムル爲豫メ之ガ修理用材料ヲ供給セシメラルル趣旨ニ有之之ヲ供給ノ範圍竝ニ種類等ニ關シテハ昭和十五年

海軍公報(部内限) 第四千三百三十三號

昭和十八年三月六日

二一三

海軍公報(部内限) 第四千三百三十三號 昭和十八年三月六日

二二四

艦本第一八八三號ニ準ジ別表金額ノ範圍内ニ於テ處理相成度

(別表)

潜水艦基地隊ニ潜水艦修理用材料供給標準

區分	一 隻 分 年 額			
	船體	機關	兵器	計
一等潜水艦	三五〇 <small>円</small>	二〇〇 <small>円</small>	三三〇 <small>円</small>	八八〇 <small>円</small>
二等潜水艦	二〇〇	一七〇	二六〇	六三〇

備考

- 一、本材料ハ潜水艦基地隊ニ於テ直接施行スル工事ニ對シテノミ供給スルモノトス
- 二、本表金額ハ船體、機關、兵器ノ區分ニ拘ラズ必要ニ應ジ流用スルコトヲ得

○ 辭 令

高維州警部補 本池 敏男
海南警備府附ヲ免ス(海軍省)

馬場 武
徴用中年額千參百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)

海軍公報

(部内限) 第四千三百三十四號

昭和十八年三月八日(月)

海軍大臣官房

○通牒

軍需機密需第一四〇號

昭和十八年三月六日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各特設海軍軍需部長 殿

艦需品一部ノ供給貸與特別措置ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十七年二月十八日軍需機密需第七一號通牒申左記ノ通改正ス

記

- 一 第二號(一)ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ戦闘時使用スル緊要品竝ニ其ノ他ノ場合使用スル之ニ準ズル緊要品ニ限リ本數量ノ制限ヲ五割トス
- 二 第三號(一)ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第二號(一)又ハ(二)ニ該當スル請求ヲ受ケ緊急處理ヲ要シ承認ヲ受クルノ違ナキトキハ臨機處理ノ

海軍公報(部内限) 第四千三百三十四號 昭和十八年三月八日

上爾後速ニ通報スルモノトス

(参照) 艦需品燃料取扱例規一八二ノ六頁

○辭令

第四課勤務ヲ命ス(三十五) 海軍省兵備局
海軍少佐 山本 信六

兼第一課勤務ヲ免ス
海軍中佐 鈴木 俊郎

第二課勤務ヲ命ス
同 山川 貞市
海軍少佐 金崎 義忠

兼第一課勤務ヲ命ス
同 山本 信六

第二課兼第一課第三課勤務ヲ命ス(以上三十五) 海軍省軍需局
海軍大佐 長尾 素夫(艦本監)
海軍豫備大尉 西 尾 正(二三掃)

(各通)

海軍豫備中尉 平塚 正雄(同本)
海軍技師 米元 竹平(艦本監)
同 田坂 覺造(同)
同 菊池 正人(同)

第二十三號掃海艇審議委員ヲ命ス

(各通)

海軍大佐 朝倉 豊次(艦本)
海軍中佐 内山 靜(艦本監)
海軍少佐 川又 政信(艦本)
海軍豫備大尉 高林 信(四驅潜)
海軍技師 村井 藏吉(艦本監)
同 田井 虎一(同)

第四十號驅潜艇審議委員ヲ命ス

(各通)

海軍大佐 朝倉 豊次(艦本)
同 本田 香橋(艦本監)
同 川岡 三十郎(同)
海軍中佐 末永 直二(艦本)
海軍豫備大尉 南波 佐間 豊(四驅潜)
海軍技師 石橋 爲三(艦本監)
同 小川 武夫(同)

第四十三號驅潜艇審議委員ヲ命ス

海軍大佐 佐藤 佐(艦本)

(各通)

海軍中佐 徳山 禪三(横艦)
同 中村 健夫(横艦)
同 南 六右衛門(軍務)
同 松田 和夫(艦本)
同 末永 直二(同)
同 岩城 繁(軍令)
海軍少佐 松枝 司藏(艦本)
同 川又 政信(同)
同 大平 正夫(横廠)
海軍技術中佐 吉田 隆(艦本)
海軍技術大尉 吉田 隆(艦本)
第二號驅潜特務艇審議委員ヲ命ス(以上八三〇海軍艦政本部)

○ 雜 款

○ 試驗問題發送
第二十四期高等科信號術練習生 採川試驗問題
第三期高等科氣象術練習生
右三月四日左記ノ通發送済、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ
海軍航海學校ニ至急通知相成度
記
一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
二 聯合試験用ノモノハ各海軍人事部及警備府宛送付

三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用
若干部各海軍人事務宛送付シ置ケリ
(海軍航海學校)

○練習生採用試験問題送付ノ件依頼
當府下士官兵逐次増員並ニ單獨施行ノ爲各種練習生採
用試験問題ハ左記宛直送相成度
追而今期募集ノモノニ對シテハ至急送付ヲ得度

長崎縣北松浦郡新御厨郵便局氣付
三塚大佐事務所宛

○郵便物發送先
自今當隊宛書類ハ左ニ依リ發送相成度

庶務關係
給與關係
隊機關科關係
醫務關係

朝風
春風
朝風
松風
(第五驅逐隊)

當隊宛書類ヲ舊鹿屋空ニ送付、又舊鹿屋空宛書類ヲ當
隊宛送付セラルルモノ今尙多數有之事務處理一多大ノ
不都合有之候ニ付自今舊鹿屋空ト混同セザル様左ニ依
リ送付相成度

當隊宛ノモノ

鹿兒島縣鹿屋市鹿屋海軍航空隊

(鹿屋海軍航空隊)

○事務開始
佐渡艦裝員事務所ハ二月二十四日横濱市鶴見區末廣町
二ノ一日本鋼管株式會社鶴見造船所内(八洲寮)ニ於
テ事務ヲ開始セリ

玉波艦裝員事務所ハ二月二十六日大阪藤永田造船所内
ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
第三十五號驅逐艦裝員事務所ヲ二月二十八日撤去セ
リ
追而郵便物ハ吳郵便局氣付 第三十五號驅逐艦

○直通電話開通
三月一日ヨリ左記區間海軍專用電話開通セリ
大阪警備府—第二海軍衣糧廠—同岡山支廠
大阪警備府—大阪軍需部岸和田倉庫

○本日普通公報發行セズ

海軍公報(部内限)第四千三百三十四號

昭和十八年三月八日

二一七

海軍公報

(部内限) 第四千三百三十五號

海軍大臣官房

昭和十八年三月九日(火)

○ 令 達

官房備第七三號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

内令 要登載

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始ハ追テ之ヲ定ム
昭和十八年三月九日
海 軍 大 臣

表中第十四海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第十五海軍
軍用郵便所

第一根據地隊

横須賀鎮守府

南東方面艦隊

所 員	監 督 官	兼 務
專任 七人	長 一人	奏任 一人
專務 五人	判任 七人	兼務 一人
雇員 五人	判任 七人	兼務 一人

加フ

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年十月六日本欄)

○ 通 牒

軍務一機密第一六九號

昭和十八年三月六日

海軍省軍務局長

各鎮守府、各警備府、各艦隊、練習聯合航空總隊、參謀長殿
戰時潜水艦乗員及航空機搭乗員等ノ保健ニ關スル施設其ノ他ノ件ノ適用ニ關スル件申進

戰地ヨリ軍港ニ歸投セル驅逐艦以下ノ小艦艇乗員中所轄長(又ハ艦艇長)其ノ必要アリト認メタルモノ及海軍練習航空隊ノ教官教員ニシテ繁劇ナル飛行教育ノ爲

海軍公報(部内限) 第四千三百三十五號

昭和十八年三月九日

二一九

海軍公報(部内限) 第四千三百三十五號

昭和十八年三月九日

三三〇

心身過勞トナリ所轄長其ノ必要アリト認メタルモノニ
 對シテハ保健場管理ノ各鎮守府(警備府)ト協議ノ上
 軍務一機密第八六號(昭和十七年二月十日海軍公報(部
 内限)參照)申進第三號第一項ノハニ依リ保健場使用
 フ許可セラルル内意ナルニ付可然處理相成度
 追テ本件適用ノ趣旨ハ過度ニ廣範圍ニ亘ラシメズ而
 モ病患發生未然防止ノ目的ヲ達成スルニ在ルヲ以テ
 特ニ急ヲ要スル場合ハ事後手續ニテモ差支ナキモノ
 ト了知相成度

軍務一機密第一七〇號

昭和十八年三月六日

海軍省軍務局長

各鎮守府、各警備府、各艦隊、練習聯合航空總隊 參謀長殿
 戰時潜水艦乗員及航空機搭乗員等ノ保健
 ニ關スル施設其ノ他ノ件申進

首題ノ件曩ニ軍務一機密第八六號(昭和十七年二月十
 日海軍公報(部内限)參照)ヲ以テ申進候處更ニ横須
 賀鎮守府ニ左記要領ニ依リ保健場設置セラルルコトト
 相成候條可然取計相成度

記

- 一 保健場所在地
茨城縣袋田方面ニ於テ横須賀鎮守府司令長官所定
- 二 保健場使用者
航空機搭乗員ヲ主トス
- 三 施設要領、使用要領其ノ他ハ軍務一機密第八六號
ニ準ズ

兵備四機密第一七三號

昭和十八年二月二十七日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

海陸軍學生生徒又ハ兵志願者ニ關スル件

照會

首題ニ關シテハ現下之等志願者ノ特殊性ニ鑑ミ客年官
 房第九六〇號ノ三(陸普第一一三〇號)海陸軍次官通
 牒ノ趣旨ニ依リ之ガ適正ナル指導ニ資スル爲當分ノ間
 工(鑛)員ニ對スル左ノ休業日數ハ海軍工具規則第四
 十三條第三號所定ノ公職ニ準ズル職務ノ執行ニ依ル休
 業トシテ缺勤日數ニ算入セザルコトニ取計相成度

海陸軍學生生徒又ハ兵志願者ノ爲受驗當日及受驗ニ要ス
 ル往返日數

記

經機密第二號ノ一〇 昭和十八年三月二日
ヲ本號廢止

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

甲造船用資材賣拂ニ關スル件申進

刻下船舶建造ノ急務ナルニ鑑ミ之ガ促進上緊急措置ヲ要スル事項ニ關シ去ル一月下旬閣議決定セラレ甲造船用資材及成品ハ生産、運輸及配給ノ關係ニ於テ軍需品同様ノ取扱ヲ爲スコトト相成候處民間ニ於ケル所要資材ノ調達困難ニシテ海軍各廳ガ現ニ保有スル資材ヲ讓渡スルニ非ザレバ促進ノ目的ヲ達成シ難キ場合ニ於テハ海軍直接ノ工事ニ支障ナキ限リ工廠資金準備材料又ハ臨時軍事費直買材料ヲ賣拂ヒ差支ナキ内意ニ付可然處理相成度

尙本件運用ニ關シテハ濫用ヲ慎ミ民間ニ於ケル努力心ヲ減殺シ海軍工廠保有材料ニ依存スルガ如キ傾向ヲ生ゼシメザル様特ニ留意相成度

追テ工廠資金準備材料及價格十萬圓以下ノ臨時軍事費直買材料ノ賣拂ニ關シテハ昭和十七年官房第四九二二號及同第七一四二號ニ依ルノ外豫メ海軍艦政本部長ニ協議ヲ要スル義ト承知相成度

○ 辭令

遞信局事務官 大石 重顯

第四海軍軍用郵便所長ヲ命ス

通信書記補 岩田 政太郎

第四海軍軍用郵便所員ヲ命ス(以上三品海軍省)

通信書記 木南 米三郎

第四海軍軍用郵便所長ヲ免ス

通信書記 時田 周市

第四海軍軍用郵便所員ヲ免ス(建勳閣)

○ 雜款

○郵便物發送先
宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ()内ハ記載セザルコト

一 海風
横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)海風

一 第四、第五驅潛艇
吳局氣付(第二十七軍用郵便所經由)第四、第五驅潛艇

一 第六驅潛艇
吳局氣付(第二十八軍用郵便所經由)第六驅潛艇

一 第六十七警備隊
横須賀局氣付

海軍公報(部内限)第四千三百三十五號

昭和十八年三月九日

二二二

海軍公報(部内限) 第四千三百三十五號

昭和十八年三月九日

三三二

<p>○旅順、鎮海、佐世保間定期船ノ件照會 左記定期船(本府所屬船) 運航中ニテ海軍軍人、軍屬、其ノ家族(特ニ許可セラレタルモノノ外内地人ノミ) 及貨物輸送差支ナキニ付利用相成度</p>		<p>龍平丸(元龍口(山東省)大連間定期船)</p>	<p>光濟(元李王家御用船)</p>																										
船名	龍平丸	光濟																											
速力(節)	七二六	一、六〇〇																											
航路及發着豫定	<table border="1"> <tr> <th>地名</th> <th>着</th> <th>發</th> </tr> <tr> <td>旅順</td> <td>五日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鎮海</td> <td>八日</td> <td>十日</td> </tr> <tr> <td>佐世保</td> <td>十一日</td> <td>十四日</td> </tr> <tr> <td>鎮海</td> <td>十五日</td> <td>十七日</td> </tr> </table>	地名	着	發	旅順	五日		鎮海	八日	十日	佐世保	十一日	十四日	鎮海	十五日	十七日	<table border="1"> <tr> <th>地名</th> <th>着</th> <th>發</th> </tr> <tr> <td>鎮海</td> <td></td> <td>二四日</td> </tr> <tr> <td>佐世保</td> <td>二五日</td> <td>二七日</td> </tr> <tr> <td>鎮海</td> <td>二六日</td> <td></td> </tr> </table>	地名	着	發	鎮海		二四日	佐世保	二五日	二七日	鎮海	二六日	
地名	着	發																											
旅順	五日																												
鎮海	八日	十日																											
佐世保	十一日	十四日																											
鎮海	十五日	十七日																											
地名	着	發																											
鎮海		二四日																											
佐世保	二五日	二七日																											
鎮海	二六日																												
收容	六	二五																											
可容	七〇	二五																											
能員	一〇〇	二〇〇																											
計	一七六	二五〇																											

貨物搭載可能量(噸) 三〇〇 一五〇

備考 一 積荷其ノ他ノ都合ニ依リ豫定ハ變更スルコトアルベシ
二 便乘願、托送願ハ乘船地、發送地ニ依リ夫々旅順方面特別根據地隊司令官、鎮海海軍港務部長、佐世保地方海軍輸送部長宛提出セラレ度
三 便乘者ニ對シテハ寢具ヲ貸與ス但シ多人數ノ場合ハ準備ノ都合上豫メ鎮海警備府ニ協議セラレ度食費ハ實費ヲ申受ク

○正誤(齊)
一月十四日附公報(部内限)通牒欄四一頁下段「官房需第八號」ハ「軍需需第八號」ノ誤

海軍公報 (部内限) 第四千三百三十六號

昭和十八年三月十日(水) 海軍大臣官房

○表彰

賞 状

(各通)

保土谷化學工業株式會社
日本曹達株式會社

航空揮發油用耐爆劑ノ國內製造ニ成功シ帝國海軍ニ貢
獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ茲ニ
之ヲ賞ス

東洋曹達工業株式會社

航空揮發油用耐爆劑原料臭素ノ製造ニ成功シ帝國海軍
ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ
茲ニ之ヲ賞ス(以上三月三日海軍大臣)

○辭令

貳千七百六拾圓	浪速丸	船長	安田	襄
千六百八拾圓	同一等運轉士	藤井	鐵夫	
千五百六拾圓	同一等運轉士	上田	良平	

貳千七百七拾貳圓 同 機關長 鈴木 良二
 千參百九拾貳圓 同 無線局長 横山 勝男
 囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額(各頭書
 ノ通)ヲ給ス(昭和十七年海軍省)

鈴木 安雄

本更津海海航空隊ニ於ケル齒科治療業務囑託ヲ解キ
 第一航空基地隊ニ於ケル齒科治療業務ヲ囑託シ部内
 限奏任官待遇トス(昭和十七年同)

花房 武藏

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(昭和十七年同)
 南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏
 任官待遇トス(昭和十七年同)

湯本 義香

ニューギニア民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス
 但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト
 ス(昭和十七年同)

海軍公報(部内限) 第四千三百三十六號

昭和十八年三月十日

二三三

(各通) 安東 信夫 佐竹 忠

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

石川 正統

海南警備府ニ於ケル事務囑託ヲ解キ海南警備府附ヲ免ス

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十七年八月同)

中谷 猷吉

古村 義夫

朝日出 武夫

渡邊 信義

本谷 慎一

新居崎 邦宜

犬飼 伸夫

竹内 眞

大澤 順太郎

池山 實

海軍航空本部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(昭和十七年十二月三十日同)

特設海軍燃料廠補給部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(二〇〇同) 西川 甚太

第二十二特別根據地隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 渡邊 敬吉

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 領事 小田部 謙一

第八海軍建設部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 柿谷 信夫

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(一七五〇同)

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(一七二〇同) 根岸 欣三

横須賀鎮守府事務囑託 北村 正勝

横濱在勤海軍武官府事務囑託 關 根 將

東京在勤海軍武官府業務囑託 佐藤 馨夫

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(二〇〇同)

高橋 俊一

第十一海軍航空廠工員寄宿舎事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額九百圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス

馬公海軍病院兼馬公海軍共濟組合齒科

治療業務囑託

秀島 守

馬公海軍共濟組合齒科治療業務囑託ヲ解キ報酬年額

千四百七拾圓ヲ給ス

海軍省調査課ニ於ケル事務ヲ囑託ス

遞信技師 佐々木 卓夫

鳥井 久良夫

第一海軍航空廠ニ於ケル海軍共濟組合醫療業務ヲ囑

託ス

但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限委任官

待遇トス

陸軍中佐 松木 繁

海軍施設本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

大東 茂

支那方面艦隊ニ於ケル水先業務ヲ囑託シ部内限委任

官待遇トス

臺灣總督府地方技師 辰 巳 造

馬公海軍建築部ニ於ケル土木業務ヲ囑託ス

農林技師 赤司 禮三

海軍省事務ヲ囑託ス

大村海軍航空隊齒科治療業務囑託

自今報酬年額七百貳拾圓ヲ給ス

第一南遣艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

地方技師 山本 廣一

横須賀海軍建築部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(以上詰同)

海軍中尉 小川 登

特設海軍燃料廠補給部勤務ヲ命ス(海軍省軍需局)

海軍大佐 金樽 義夫(風 早)

同 朝倉 豊次(艦 本)

同 岸 兵二(艦 本)

同 佐(佐) 藤(艦 本)

同 海軍大尉 岩田 茂(風 早)

同 海軍技術少佐 近藤 忠夫(艦 本)

同 海軍豫備大尉 泉 強(風 早)

同 海軍技師 根岸 秀夫(艦 本)

同 同 山本 茂(同)

特務艦風早審議委員ヲ命ス(海軍艦政本部)

海軍公報(部内限) 第四千三百三十六號 昭和十八年三月十日

二二五

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

第二十一期高等科運用術 操舵 應急練習生採用試驗問題
右三月八日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ
海軍航海學校ニ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部及警備府宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲
聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試驗用
若干部各海軍人事部宛送付シ置ケリ

(海軍航海學校)

第六回普通科看護術特技章付與銓衡試驗問題

(銓衡試驗施行期日昭和十八年五月三日)
右三月四日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ
至急通知相成度

記

- 一 聯合試驗參加各部ノ分ハ横須賀海軍人事部長ニ送付
- 二 單獨試驗施行ノ各部ニハ直送
- 三 聯合試驗參加豫定ノ所轄ニシテ行動豫定變更其ノ
他ノ都合ニ依リ聯合試驗不能ノ向ニ對スル分トシテ

横須賀海軍人事部長宛若干部送付シ置ケリ

(横須賀海軍病院)

○ 事務所設置

富高海軍航空隊(假稱)設立準備事務所ハ二月三日築
城海軍航空隊内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 事務開始

第四十號驅潛艇艦裝具事務所ハ三月四日廣島縣御調郡
土生町株式會社大阪鐵工所因島造船所内ニ設置シ事務
ヲ開始セリ

第四十三號驅潛艇艦裝具事務所ハ三月五日新潟市入船
町四丁目新瀉鐵工所新瀉工場内ニ設置シ事務ヲ開始セ
リ

○ 事務所撤去

呂號第五百潜水艦裝具事務所ヲ三月五日撤去セリ
追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

吳郵便局氣付 呂號第五百潜水艦

○ 正誤

三月三日附海軍公報(部内限)二〇一頁上段四行目辭
令欄中「海軍武官調査委員ヲ命ス」ハ「海軍武功調査
委員ヲ命ス」ノ誤